

施設建設後における利用団体の「荷物置き場」の設置場所とその運用

－船橋市における地域施設の整備過程に関する研究 その2－

日大生産工（院） ○多田豊 日大生産工 浅野平八

1. 「荷物置き場」の研究意義

1-1. 研究の意義

一般の地域施設と異なり、公民館や地域団体の活動拠点となっている施設では一般事務以外の「荷物」が置かれることがある。

本論で述べる「荷物」とは次の3つである。筆者らが確認した事例では、1) 北九州市A公民館には地域の祭道具を仕舞える住民団体室があり

「地域共有物」の保管場所として施設が認知されている、2) 佐賀市H公民館や君津市C公民館は「利用団体の活動記録」を保管する専用の倉庫があり地域活動の記録、保管という機能を持つ、3) 多くの公民館では定期的に公民館で活動を行っている「利用団体の荷物」が置かれている。利用団体がその施設を活動の中心とし、継続的な活動を行う上で利便性を向上させる効果がある。

このように、「荷物置き場」の設置は、地域共有物の保管場所、地域活動の記録保存、利用団体の継続的活動の維持、という効果を生みだし、コミュニティの拠点としての機能を施設に付加させていると考える。

1-2. 利用団体の荷物置き場の研究意義

本研究は、「荷物置き場」研究の一として、利用団体荷物置き場（以下、荷物置き場）を研究対象にする。既往研究また設計参考資料では、地域施設における荷物置き場について着目されていない。また、設計時に、市町村側が施設の機能、規模等を設計者側に要求する場合にも、荷物置き場の設置が明記されることは少ない。ここで、意識ある行政担当者、もしくは設計者が在していなければ、荷物置き場は計画されることはない。

現実には多くの公民館で、倉庫の一部や和室の

押し入れ等をサークル倉庫にしたり、ロビーや廊下にロッカーを設置する事例がみられる。当初より、計画されていれば、倉庫の位置、適正な規模、用途変更の可能性がある設計が可能になる。

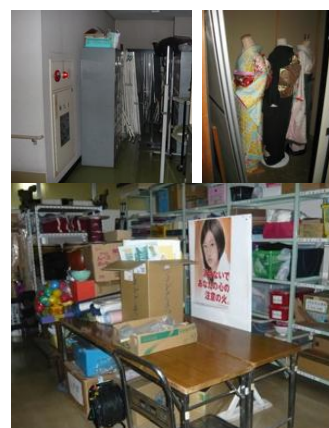
ロッカーの設置や職員の目の届かない場所を倉庫としている事例では、間違い利用等による団体間のトラブル、盗難の心配と裏合わせに鍵を管理する主体の問題、施設設置当初からの一部団体がロッカー等を占有する既得権意識を生み出し、他団体間との調整を必要とする等、現場に問題を起こしている。こうした現実問題を解決していくことが、学術研究として重要であると考えた。

2. 研究の目的と方法

現状における荷物置き場の場所及び荷物の種類と量を把握し、今後、新設時での荷物置き場の設計資料とすることを目的とする。

施設計画時に荷物置き場を設計していない事例として、船橋市を対象に調査を行う。2007年9月に、船橋市25公民館を訪問し、設計図書の入手、職員（館長、不在の場合は主事）へのヒアリング及び収納の観察調査を行った。うち一館は建替えのため仮設館での運営のため、調査対象より省いた。

第3章では、設計図書の入手できた施設の収納面積及びサークル倉庫として転用された面積を計算する。第4章では、24施設の



写真左：廊下に設置されたサークルロッカー（no. 1）／右：和室の押入れにある利用団体の荷物（no. 8）
下：サークル倉庫として転用された公民館倉庫（no. 6）

Storage spaces arranged for facility user groups.

A study on the placing process of the community facilities in Funabashi city, 1946-2007, Part2.

Yutaka TADA, Heihachi ASANO

荷物置き場を共通部分（倉庫・ロッカー）と各室内部分との位置より分類する。分類された施設間を比較し、以下の5項目を検討することで、荷物置き場の設置実体を明らかにする。

3. 収納面積とサークル倉庫面積の傾向

3-1. 収納面積

表1は設計図書の入手できた船橋市22公民館の収納等に関するデータであり、以下の通りである。施設番号は表3と対応させ、年代順に記している。

・延べ床面積…(A)
[収納面積]
・収納総面積（(C)と(D)の合計）…(B)
・各室内の収納…(C)
・共有部分・廊下にある収納…(D)
・(D)のうちサークル倉庫の面積…(E)
[割合]
・延べ床面積に占める収納面積の割合…(B/A)
・共通部分の収納面積に占めるサークル倉庫の面積の割合…(E/D)

21施設の設置年代と延べ床面積との関係を見ると（図1）、低い正の相関があることが分かった（No. 4は施設規模が他施設と比較して著しく大

きいと判断し省いた）。21施設の延べ床面積と収納面積には相関は認められなかった（図2）。延べ床面積が増加しても、収納総面積は増加していないことが分かる。

年代とともに施設規模は大きくなったが、収納部分の面積は増加していない。このことから、収納の設計は、計画及び設計時の担当者に委ねられる部分があると考えられる。

3-2. サークル倉庫面積

サークル倉庫の設置されている14施設をみる。サークル倉庫面積(E)と共通部分の収納面積(D)の関係には相関が認められる（図3）。つまり、Dが大きい施設ではEにより多くの面積を割り当てていることが分かる。図4は、Dの順に、EとD-Eとを並べたものである。Dが12㎡以下の4施設には、共通部分に倉庫が1か所しかないため、全てサークル倉庫として使用されている。Dが12㎡より大きい施設では、共通部分に何か所かある倉庫のうち、1つをサークル倉庫として割り当てている。

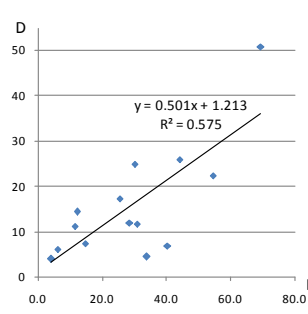
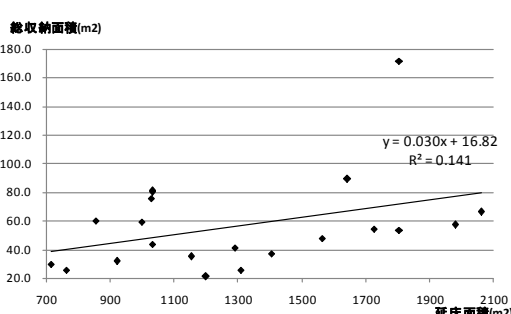
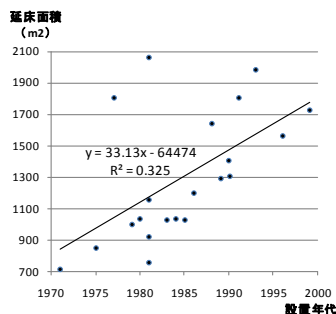
表1：施設の延べ床面積と収納面積

番号	建設年	階数	貸出室数	延べ床面積(m ²) (A)	収納面積(m ²)				B/A (%)	E/D (%)
					総面積(B)	Bのうち室内(C)	Bのうち共通部分(D)	Dのうちサークル倉庫(E)		
1	1970.03	2	8	714	29.7	29.7	0.0	-	4.16%	-
2	1975.03	1	5	853	59.8	31.3	28.5	12	7.01%	42.1%
3	1977.02	4	8	1806	53.3	13.0	40.3	6.9	2.95%	17.1%
4	1977.07	4	17	5660	111.0	41.5	69.5	50.9	1.96%	73.2%
5	1979.03	1	7	999	59.1	47.1	12.0	12	5.92%	100.0%
6	1980.03	2	8	1032	81.0	36.9	44.1	26	7.85%	59.0%
7	1981.03	1	7	761	25.8	14.5	11.3	3.39	3.39%	100.0%
8	1981.03	2	5	920	31.7	28.2	3.5	-	3.45%	-
9	1981.03	3	7	2063	66.1	32.2	33.9	4.5	3.20%	13.3%
10	1981.03	3	7	1153	35.0	0.0	35.0	-	3.04%	-
11	1983.03	2	7	1027	75.8	50.5	25.3	17.3	7.38%	68.4%
12	1984.03	2	7	1032	80.0	49.3	30.7	11.7	7.75%	38.1%
13	1985.03	2	7	1031	43.7	24.0	19.7	-	4.24%	-
14	1986.03	3	9	1200	21.0	14.9	6.1	6.1	1.75%	100.0%
15	1988.03	3	7	1643	89.2	59.2	30.0	25	5.43%	83.3%
16	1989.03	2	8	1291	41.2	34.6	6.6	-	3.19%	-
17	1990.03	2	8	1405	36.8	22.2	14.6	7.4	2.62%	50.7%
18	1990.07	1	8	1308	25.3	21.3	4.0	4	1.93%	100.0%
19	1991.07	4	8	1805	171.7	117.2	54.5	22.5	9.51%	41.3%
20	1993.03	3	9	1982	57.0	35.6	21.4	-	2.88%	-
21	1996.03	2	9	1564	47.7	20.7	27	-	3.05%	-
22	1999.12	2	9	1726	54.2	40.5	13.7	-	3.14%	-

表3：荷物置き場による分類と利用制限

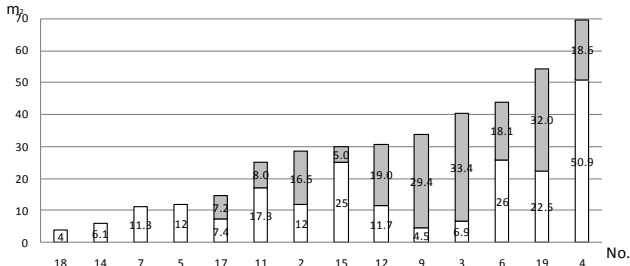
番号	分類	分類内室					利用制限	運営上の工夫
		共通部分 倉庫	ロッカー	和室押入れ	講堂・レク室	調理室・倉庫		
1	ⅡA		○				1	年に一度換装
2	ⅡB	○		和蔵サ	太蔵サ		1	年に一度大掃除を実施
3	ⅠA	○					2	年に一度換装
4	ⅠA	○					1	利用者の話し合いで場所を「分け合う」
5	ⅠA	○					2	
6	ⅠA	○					1	
7	ⅠA	○					1	
8	ⅡB		○	和蔵サ	太蔵サ		3	利用者の話し合いで場所を「分け合う」
9	ⅡB	○			卓球サ		2	
10	ⅡA		○				1	
11	ⅡB	○	○	和蔵サ・卓球サ	卓球サ		4	
12	ⅡB	○			ダンスサ		1	利用者の話し合いで場所を「分け合う」
13	ⅡA		○				4	
14	ⅡA	○	○				4	
15	ⅠA	○					1	利用者の話し合いで場所を「分け合う」
16	ⅡB			等サ	卓球サ	調理サ	4	
17	ⅠA	○					3	
18	ⅠA	○					1	二年に一度換装
19	ⅠA	○					1	
20	ⅡB				太蔵サ		3	
21	ⅡB			和蔵サ	太蔵サ		4	
22	ⅡA						-	
23	ⅡA		○				3	
24	ⅠA	○					1	年に一度大掃除を実施

【凡例】利用制限 1：館側の許可が必要、2：利用サークル連絡協議会への入会、3：利用サークル連絡協議会の許可が必要、4：利用団体が館側の許可なく利用している



左より、図1：設置年代別にみる延べ床面積、図2：延べ床面積別にみる収納面積、図3：共有部分の収納面積とサークル倉庫面積

図4サークル倉庫の面積(E)とそれを除いた共有部分の収納面積



[凡例]網掛なし：サークル倉庫の面積

4. 荷物置き場による分類と比較

4-1. 分類

荷物置き場の分類項目（共通部分、室内部分）を表2に示す。表3は24公民館を荷物置き場によって分類し、かつ、ヒアリングより得られた利用に関する制限と運営上の工夫について示した。ここで室内部分の中で「荷物置き場」となる空間として、和室の押入れ、講堂の収納、調理室の倉庫がある。ここに置いてある、利用団体の荷物からサークルの種類を推測した。

表2 利用団体「荷物置き場」の分類項目

共通部分	室内部分	
	A: 荷物を置かない	B: 荷物を置く
I: 倉庫をサークル専用倉庫として転用	IA	IB
II: ロビーや廊下等にサークルロッカーを置く	IIA	IIB
III: IとIIの両方を満たす事例	IIIA	IIIB
IV: IとIIの両方を満たさない事例	IV A	IV B

表4は、分類別の施設数をみたものである。I + III（倉庫をサークル専用倉庫として転用）は14例あり、II + III（サークルロッカーの設置）は8事例あった。

4-2. 比較

1) サークル倉庫のある事例とない事例

共通部分に荷物置き場を設置していない事例（IV）は3施設あった。サークル倉庫のある施設（I + III）とない施設（IV）との収納面積をみたのが表5である。収納面積が60m²以上の場合には、全施設でサークル倉庫が設置されていることが分かる。…（A）

特に事例4はサークル倉庫の面積が50.9m²と他施設よりも大きい。事例4は8階建て（うち公民館占有階数は4階）、中央コア型のビルであり、貸出室数は17室ある（他施設は7～9室）。ヒアリングによると、かつて集会室として貸し出していた一室を、サークル倉庫として転用したとのことで

表4 「荷物置き場」による分類と対応施設数・番号

分類	施設番号
I (12)	IA (9) IB (3)
II (5)	IIA (4) IIB (1)
III (2)	IIIA (1) IIIB (1)
IV (3)	IVA (1) IVB (2)
I + III (14)	IA + IIIA (10) IB + IIIB (4)
II + III (8)	IIA + IIIA (3) IIB + IIIB (2)

表5 収納面積の比較

	20～39	40～59	60以上
I + III	4	3	7
IV	3	5	0

表6 サークル倉庫の面積

	10以下	10～18	18以上
IA	3	2	4
IB	1	2	0

表7 共通部分の収納面積

	20m ² 以下	20-39m ²	40-59m ²	60m ² 以上
I	0	3	4	5
II	3	1	0	0

あった。このように、室数が多い施設の場合、共用倉庫ではなく、一室をそのままサークル倉庫として転用することが可能である。…（B）

2) サークル倉庫設置施設の室内収納の使われ方

I（倉庫をサークル専用倉庫として転用し、サークルロッカーをおかない）12事例のうち、各室内に荷物をおいていない事例（IA）は9事例と最大値を示した。各部屋に荷物を置く事例（IB）は3事例（No. 2, 9, 12）あった。各室内に荷物を置くと他の団体が利用している際に荷物の出し入れ等に不都合があるため、サークル倉庫が設置されている場合には、IAのように各部屋に荷物を置く必要がなくなると考えられる。

IAとIBのサークル倉庫部分の面積を比較する。表6に、施設をサークル倉庫の面積（10以下、10～18、18以上）で分類した。比較より、18m²以上サークル倉庫の面積がある場合には、各部屋に荷物を置いていないことが分かる。…（C）

3) サークルロッカーのみを設置する施設

II（サークル倉庫を設置せず、サークルロッカーをおく）は5事例あった。IとIIの共用部分の収納面積を比較する（No. 23は省く）。表7に示すように、Iに属する施設は、IIよりも収納面積が大きい。IIに属す、No. 1については共用部分に収納がなく、最大値の施設でも35.0 m²である。よって共用部分にある倉庫部分が、面積が小さく館側の荷物で手狭であり、サークル倉庫を設置できず、ロビー、廊下にサークルロッカーを設置したと考えられる。…（D）

III（倉庫をサークル専用倉庫として転用し、かつサークルロッカーをおく）は2事例ある。IIIの

表8 収納タイプ別にみる利用制限

利用制限	I A	I B	II A	II B	III A	III B	IV A	IV B
1	7	2	3					
2	2	1						
3	1			1				1
4			1		1	1		2

〔凡例〕利用制限の分類は表3凡例参照のこと

施設のサークル倉庫の面積をみると、6.1 m²と17.3 m²であった。このことと、(D) とを併せて考えると、18m²以上サークル倉庫の面積がなければ、サークルロッカーの設置もしくは、各部屋の収納に荷物が置かれると考えることができる。…(E)

4) 荷物置き場を設置しない施設

IV (サークル倉庫及びサークルロッカーをおかない) は3事例あり、その上に各室に荷物を置かない事例が1事例 (IV A、No. 22) ある。これは完全に「利用団体の荷物」を置いていない施設であり、その理由についてヒアリングを行った。No. 22は2000年竣工の新設館であり、利用者側より何度か荷物置き場の設置またはサークルロッカーの設置の陳情があったが、歴代の館長が認めなかったことが明らかになった。…(F)

5) 室内収納のみを荷物置き場とする施設

各室に荷物を置く事例 (IV B) No. 20, 21の収納面積は、共通部分で21.4、27.0、室内部分で35.6、20.7あり、総収納面積は他のサークル倉庫を置く施設と比較しても小さくはない。ヒアリングによると、(E) と同じく現在でも、サークル倉庫の設置が住民団体より求められていることが明らかになった。太鼓や琴など大荷物のみを活動を行っている室内に置くことを認めているとの回答を得た。両施設は1993年、1996年に竣工した施設である。

ここで、(E) と併せて考えると、利用団体はまず、各室に大荷物等を置いて帰ることを館側に認めさせるという流れがある。これは職員の異動等の際に、新しく赴任した職員に対して住民団体が陳情を行うとのヒアリングが得られた。次の段階として、サークル倉庫の設置を求めるが、共通部分の収納面積が18m²より大きい場合には、倉庫のうちの一室をサークル倉庫とでき、18m²以下の

場合にはサークルロッカーを設置する等の対応が行われると考えられる。…(G)

6) 利用制限からみる検討

利用制限を1～4に分類し、1が最も館側の主体性が強く、4に近づく程利用者が自由に施設を利用していることを示している。表8は、分類別に、利用制限のとられ方を整理したものである。サークル倉庫が設置されている事例 (I A + I B) 及びサークルロッカーのみが設置されている事例 (II A) では、館側の許可が必要な事例が、17事例中12事例あった。それに対し、サークル倉庫やロッカーはなく室内部分に荷物が置かれている3事例 (IV B) では、利用連の許可が1事例、住民が自由に置き館側は関知していないが2事例あった。…(H)

5. まとめ

利用団体の「荷物置き場」は、24施設中23施設で確認することができた。このうち、共通部分にある収納をサークル倉庫として転用した事例は14事例あり、全収納面積が60m²以上ある7館ではサークル倉庫が設置されている(A)。貸出室数が17室と多い事例では、不要となった一室をサークル倉庫として転用することが可能である(B)。サークル倉庫の規模が18m²以上ある場合には、サークルロッカーは設置されず、各部屋の収納に荷物は置かれていない(C、D、E)。建設年代の新しい施設の事例より、開館当初は各部屋の収納で荷物は預からず、サークルロッカー、サークル倉庫は設置しない。しかし、年代が経つ毎に、住民独自に各部屋の収納に荷物を置き始め(H)、その後に職員の異動等の際に、住民からの陳情があり、サークルロッカーや倉庫等が設置されることが分かった(F、G)。

今後の課題として、荷物置き場があることで活動に与える影響を検証する。また残る2つの「荷物置き場」についても事例研究を進める。